

日本海を北上する対馬海流は、まるで雄大な海の大河。

上流の東シナ海から運ばれてくる熱エネルギーは、下流域にある日本海側地域に豊富な雨と雪をもたらします。

そこに暮らす人々は長い時をかけて水を治め、活かし、豊かな穀倉地帯を形作ってきました。

今回のシンポジウムでは、文理融合の観点から環日本海地域や富山の環境保全について現状を見据え、未来を考えます。

海の大河から見えてくる環日本海のこれまで、これから

FUTURE EARTH

フューチャーアース

平成 29 年 5 月 12 日 (金) 13:00~(開場 12:30)

富山大学理学部 2 階 多目的ホール(五福キャンパス内)

定員: 200 名 [参加無料]

プログラム

コーディネーター: 張 勁 (富山大学大学院理工学研究部教授)

1部: 環日本海「森・川・里・海」の姿
ロシア・韓国・中国の現状から

2部: 高低差 4,000m 「富山・富水・富心」の姿
物質循環、環境保全、里山の営み、自然保護法制的観点から

3部: パネルディスカッション「環日本海と富山の未来へ」

主催: 富山大学

共催: 環日本海環境協力センター

協賛: 富山テレビ放送

後援: 北太平洋海洋科学機構・北西太平洋地域海行動計画

申込・問合せ: 「フューチャーアース」シンポジウム運営事務局

(富山大学理学部内) 〒930-8555 富山市五福3190

TEL.076-445-6665 Email:jzhang@sci.u-toyama.ac.jp



FUTURE EARTH

海の大河から見えてくる環日本海のこれまで、これから

日本海を北上する対馬海流は、まるで雄大な海の大河。上流の東シナ海から運ばれてくる熱エネルギーは、下流域にある日本海側地域に豊富な雨と雪をもたらします。そこに暮らす人々は長い時をかけて水を治め、活かし、豊かな穀倉地帯を形作ってきました。

一方で、日本海は温暖化の影響が顕著なことから、世界的な研究の舞台として注目を集めています。中でも、わずか50kmの水平距離で高低差4,000mを有する富山県は、世界の縮図ともいえる場所。富山大学はこの立地を活かし「高低差4,000m 富山環境」プロジェクトを立上げ、十数年にわたる研究と教育で環日本海地域をリードしています。

今回のシンポジウムでは、環日本海の各国（ロシア・韓国・中国・日本）はもとより、国内の法律学や人文社会科学の研究者など、文理融合の観点から環日本海地域や富山の環境保全について現状を見据え、情報を共有し、未来に向かって私たちがどのように暮らしていけば良いかを考えます。

スケジュール

13:00 開会あいさつ 遠藤俊郎(富山大学学長)

1部：環日本海「森・川・里・海」の姿

13:05 「ロシアの現状」 Dr. Vyacheslav Lobanov

13:25 「韓国の現状」 Dr. Kyung-Ryul Kim

13:45 「中国の現状」 Dr. Sumei Liu

2部：高低差4,000m「富山・富水・富心」の姿

14:05 「富山高低差4,000mと日本海の物質循環」 張 勁

14:15 「環日本海地域の環境保全」 吉田 尚郁

14:25 「里山の恵み、自然農の営み」 河上めぐみ

14:35 「自然保護法制と地域主権から見た環日本海地域」 神山 智美

14:45-15:00 休憩

3部：パネルディスカッション「環日本海と富山の未来へ」

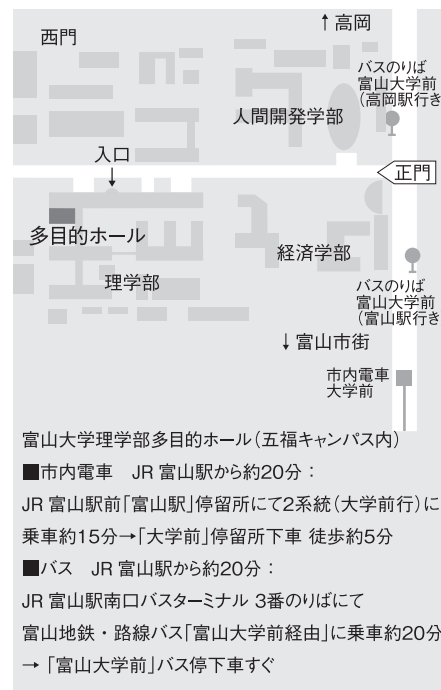
15:00 コーディネーター：張 勁

パネリスト：Vyacheslav Lobanov、Kyung-Ryul Kim、Sumei Liu、

吉田 尚郁、河上めぐみ、神山 智美

15:50 質疑と総括

16:05 閉会挨拶 池田真行(富山大学理学部長)



参加
申込

会場準備の都合から、事前申し込みにご協力ください。お申込みの際は、申込み欄に記入し、FAX.076-445-6549 またはメールでお送りください。
申込・問合せ：「フューチャーアース」シンポジウム運営事務局（富山大学理学部内）
〒930-8555 富山市五福 3190 TEL.076-445-6665 Email:jzhang@sci.u-toyama.ac.jp

[リサイクル適正]

FUTURE EARTH シンポジウム

参加申込書

FAX.076-445-6549

Email:jzhang@sci.u-toyama.ac.jp

フリガナ	
氏名	
所属	
連絡先 電話番号	
メールアドレス	

※ご記入いただいた個人情報は、このシンポジウム開催のみに使用し、その他の目的には使用いたしません。